

平成 27 年度学校関係者評

価

学校の教育目標	自分の「成長」を追い求め、夢と志をもって将来をつくる *成長するためのABC(A:アクションを起こす、B:ベストを尽くす、C:チャレンジする)
重点目標	○ 中学時代に習得すべき知識・技能等の定着化（基盤軸）
	○ 成長する仕組み作り（成長軸）
	○ 学校経営力の強化（マネジメント軸）

評定判断基準	
A	達成率90～100%
B	達成率70～89%
C	達成率60～69%
D	達成率60%未満

	重点目標	達成指標	達成指標評定	重点的取組	取組指標	取組指標評定	総合評定	学校への意見及び要望
1 学期	中学時代に習得すべき知識・技能等の定着化 (基盤軸)	【授業規律の定着】 B0 ○生徒に「授業に集中する態度」を身につけさせる。 ・「学級の集中雰囲気」を60%、「落ち着いて学習」を85%以上。 【基礎・基本の定着】 B1 ○生徒に「基礎学力」を身につけさせる。 ・定期テストで下位層の生徒の割合を1割程度にする。(目標:下位層3割減、上位層3割増) ・次年度の全国学力調査で平均以下の項目を減少させる。 ・「家庭学習」を85%以上にする。 他:【思いやりの心の育成】、【体力の向上】	B	○授業態度の指導を徹底し、授業規律の確保に取り組む。(「私語がない」、「離席がない」、「時間着席」、「忘れ物がない」等) ○わかる授業をめざし、「学び合い」、「めあてまとめ」や「習熟・少人数・TT(一部)」等を実践するとともに、授業改善に取り組む。 ○学びタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。 ○昨年度の反省(一部下位層拡大)を踏まえ、テスト毎に分析・評価を組織的に行う。 ○家庭学習の時間を2時間確保する。 【到達イメージ】 ・学級:全学級で計画通りに授業が進んでいる ・生徒:「時間着席」、「離席がない」、「私語がない」、「忘れ物がない」の授業規律を守っている	○授業を予定通りに進める。迅速な組織対応により、授業ストップを生じさせない。(全教職員、管理職) ○全教職員が参加する互見授業を毎月実施する。校長、教務・研究主任他を中心に授業観察。(全教職員、管理職) ○校内研究会(授業改善方を全員で確認)を学期に1回程度実施する。(研究主任、学力向上支援教員) ○学びタイムを毎日清掃の後、全員で10分間実施する。(学級担任) ○定期テスト実施後に学年、教務主任、研究主任、管理職で下位層等の状況を共有し、改善策を検討・実施する。(教務主任) ○担任が、毎日、生徒の自学ノートをチェックし、指導する。(学級担任)	A	A	・学校教育方針の具現化に向けて、教育活動全般について、極めて内容がよく網羅されている。更に全教職員で実践に向けての取組みにおいて、教育効果を高めるための、手立てが随所に、そして工夫されており、卓越した取組みである。 ・2年生は昨年度の様子からして随分改善されている。根気強く組織的に取り組んでいる成果だと思われる。これからも引き続き関係者を巻き込みながら最善の方策を考え取組んでほしい。
	成長する仕組み作り (成長軸)	【個別支援】 G0 ○生徒一人ひとりの教育的ニーズに沿った個別支援を行う。 他:【良いとこ出し】、【自律成長活動】	A	○個別支援が必要な生徒一人ひとりに応じた対応のしかたを検討し、関係者で共有、実施する。	○生徒指導会議を月1回実施し課題共有・対策検討等を実施する。(生徒指導主事) ○不登校対策委員会を月1回実施し共有・対策等を実施。(地域不登校防止推進教員) ○特別支援会議を月1回実施し共有・対策等を実施する。(特別支援コーディネーター)	A	A	・学校評議委員会では生徒指導のあり方など話題にさせていただきたい。
	学校経営力の強化 (マネジメント軸)	【組織力向上】 M0 ○各チーム力の向上を図る。 【総合力】 M3 ○保護者の学校参観者数を世帯数の50%以上ににする。 他:【高品質・効率的学校経営】、【開かれた学校】	A	○分掌会議等を機能させ、チーム力の向上を図る。 ○学校と家庭が連携し生徒を育成するために、まずは保護者の授業参観を増やす。	○学年会議、朝会等を実施する。(学年主任) ○運営委、定例会議に加え連絡・共有の場(全体連絡会、職朝等)を設定 ○保護者に学校への参観を働きかける。(管理職、全教職員)	A	A	・学校が丸となって教育活動に取り組んでいる様子がわかる。 ・先生達が一生懸命取り組んでくれていることに感謝している。